

# 令和6年度 学校評価書

## 静岡精華幼稚園

令和7年3月31日

A: そう思う B: 大体そう思う C: あまりそう思わない D: そう思わない

精華幼稚園 教育目標		ひとり立ちする子	自己 評価	取り組み状況 改善策	学校関係者評価	
3 つの 重点	1 経験・体験の 幅の拡大	【教師の営み】精華幼稚園は、日々教師も一緒に加わって子どもたちの遊びを盛り上げている。また、集いや行事や園外保育なども積極的に企画し、子どもたちの経験や体験の幅を広げさせようとしている。	A	【取組・反省】本年度も「経験・体験の幅の拡大」を念頭においた様々な活動を計画的に実施することができた。熱中症・感染症対策に配慮しながら、年間を通じて各行事を実施。充実した教育活動を行うことができた。	A	いつ来ても精華幼稚園のよさは変わらない、と感じている。日々の先生方の努力の積み重ねには頭が下がる思い。様々な課題が山積している中で教育活動だと思いが、今後も子どもたちのために尽力をお願いしたい。
		【子どもの状況】子どもたちの遊びは期待したとおりの広がりや深まりを見せてきている。	A	【改善策】子どもたちの遊びがより一層深まるよう、各行事のねらいを明確にした上で、職員の働き方改革とのバランスを考えて計画する必要がある。	A	
	2 人間関係調整 力の伸長	【教師の営み】精華幼稚園は、子どもたちが人とふれあう機会を積極的に設定しようとしている。	A	【取組・反省】各行事とも「子ども同士の関わりの場」を大切にしながら丁寧に教育活動を行っている。個々へのフォローも大切にしている。	A	いつも園児たちは元気いっぱい。明るく元気な表情でよく声をかけてくれる。これから生きていく上でも、コミュニケーション力の育成は重要な取り組みであるといえる。
		【子どもの状況】子どもたちは、臆することなく人とふれあうことができるようになってきている。	A	【改善策】「意図的な人との関わりの場」を積極的に設け、異年齢との関りを含め、さらにコミュニケーション能力をさらに高めていきたい。	A	
	3 聞く態度・聞き 取る力の育成	【教師の営み】精華幼稚園は、意識して子どもたちに話を聞き取らせる工夫と努力を続けている。	A	【取組・反省】全職員が常に「子どもの聞く姿勢と聞こうとする意識の有無」にポイントをおき、子どもと接し、また働きかけるよう心がけている。	A	「聞く力が確実に身に付いている」ことは、日々の教育活動や子どもたちの様子を見ていてもよくわかる。子どもたちは、先生たちの話に真剣に耳を傾けている。
		【子どもの状況】子どもたちの話を聞こうとする姿勢は着実に育ってきている。	A	【改善策】本園の子どもたちのここの一番の集中力は群を抜いており、聞く力も育っている。この精華幼稚園の強みは今後も大切にする。	A	

教育 目標 具現	1 自由遊びが できる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもが自分で遊べるよう積極的に子どもたちの中に飛び込み、子どもたちに遊びを促す。	A	【取組・反省】朝の子どもたちの受け入れ後、職員は率先して園庭に出て、子どもたちの遊びの相手をするを心がけている。子どもたちも身支度を整えると、進んで外に出て遊びを楽しんでいる。	A	先生たちが、朝から園庭で子どもたちと一緒に楽しそうに遊んでいる姿をいつも見させてもらっている。本当にはほほえましい光景だと思っている。
		【子どもの状況】自由遊びの時間、子どもたちはみなびのびと遊びを楽しんでいる。	A	【改善策】子どもの発達段階や個々の成長に応じた声かけや支援を行い、一人ひとりの遊びをさらに深め主体性を育てたい。遊びに入れない子どもにも配慮したい。	A	
	2 集団遊びが できる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、率先して子どもたちの遊びの輪の中に入り、遊びを盛り上げたり遊びの広がりを促したりする。	A	【取組・反省】屋内・園庭において、生き活きと集団遊びを楽しむ園児の姿が見られた。園児への働きかけも積極的に行い、子どもの遊びの幅を広げることができた。	A	「全職員で全園児を育てる」というスタンスが、教育活動全般に浸透している。学年・学級の垣根なく、子どもたちに関わっているのは精華幼稚園の先生たちのよさである。
		【子どもの状況】子どもたちは外遊びを好み、友達と一緒に群れて遊んでいる。	A	【改善策】一人遊びをしてしまったり、傍観者となってしまったりする子どもに対して積極的な働きかけを行いたい。	A	
	3 園行事に楽しく 参加する子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、「主役は子ども」という姿勢で行事に子どもの思いを反映させている。	A	【取組・反省】子どもたちがより主体的に各行事に参画できるよう、一人ひとりを活かす場面や動線等を考え工夫しながら計画、実施、支援を行っている。	A	精華幼稚園から毎日園児の楽しそうな声が聞こえてくる。先生方も明るい笑顔で子どもたちに接しており、地域住民としても心温まる思いになる。保護者の方々が積極的に各行事に参画している点も大変よいと思う。
		【子どもの状況】子どもたちは、一つ一つの園行事を心から楽しんで受けとめている。	A	【改善策】職員が行事に追われ、ゆとりがなくなり、多忙感が強くなるため配慮は継続しているが、この点は引き続き今後の課題。	A	

に向けて育てたい7つの子ども像	4 自分のことは自分でやれる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、子どもたちが自分でできる可能性の限界を見極めながら、自分の手でできるようになるまで根気強く寄り添おうとする。	A	【取組・反省】本園は子どもの主体性を促しながら、「待つことができる、待ってあげられる」職員集団である。年齢や発達段階に応じて「ここまではやってあげるけど、続きは自分でやってみよう」と常に声をかけている。	A	幼児期ほど主体的に活動できる時期はないので、この時期の活動を大切にしてほしい。自己肯定感を高めるためにも子どもたちの主体性を尊重しながら、今後も共通の基本姿勢をもとに個々の対応をしてほしい。
		【子どもの状況】子どもたちは、着替えや片付けなど自分一人でやり抜こうとする。	B	【改善策】個々の発達段階に応じて「ここまでできるように！」と目標を定めて支援を行うようにしたい。	A	
	5 美しくあいさつできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、朝と帰り、心を込めて声をかけ、子どもたちに挨拶の響きの心地よさを知らせながら挨拶のこだま返しを誘っている。	A	【取組・反省】「あいさつは教師から」を全職員で共有し、実践を継続している。また、朝と帰りの挨拶については、自分から進んで気もちのよいあいさつをしたり、元気のよいあいさつを返したりする子どもが多い。しかし、まだまだ個人差はある。	A	小学校においても児童のあいさつが課題になっている、という話は聞いている。幼稚園、学校、家庭が同一歩調で取り組んでいくことが大切であることは言うまでもない。
		【子どもの状況】子どもたちは「おはよう」「さようなら」をしっかりと返している。	B	【改善策】幼稚園での働きかけだけでなく、今後も家庭との連携の中で、気もちのよいあいさつができる子を育てていく必要がある。	A	
	6 美しくお話しできる子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、言葉を大切にしながら子どもの立場に立って分かりやすく話し、子どもの言葉にゆったりと耳を傾けて、思いをしっかりと受けとめる。	A	【取組・反省】精華幼稚園は、子どもの気もちを考えながら、子どもの立場に立って、聞き上手で話し上手な教師となるよう心がけ対応している。基本的に、言葉遣いについては丁寧なお話ができる園児が多い。また、自分から話しかけようとする姿も数多く見られる。	A	言葉遣いについては、まず教師が模範となる姿を子どもたちに見せてほしい。また、これまで通り、丁寧に美しい言葉遣いができる精華幼稚園の子どもたちでいてくれることを願っている。
		【子どもの状況】子どもたちは安心して「先生、あのね、・・・」と話し出す。	A	【改善策】子どもが安心して話ができる環境づくりとコミュニケーションづくりを日常生活において日々継続していくことが重要であると考えている。	A	
	7 好奇心や探究心を抱く子に	【教師の営み】精華幼稚園の教師は、社会事象や自然事象への遭遇(経験・体験)の広がりを求めて、積極的に園外保育に出かける。	B	【取組・反省】各行事における経験・体験の広がりは達成できたと感じているが、園外保育については時間的なゆとりがあまりなく、なかなか時間が取れないのが現状である。	B	やはり「ゆとり」は大切。やることが多すぎると、めざす目的はつきりなくなってしまう心配もある。教育方針と園児に付けるべき力を明確にし、「ゆとり」ある教育をお願いしたい。忙しいとは思いますが、計画的な園外保育を行い、近隣公園を活用してほしい。
		【子どもの状況】子どもたちの社会や自然に対する認識の広がりは、確かな歩みを見せている。	B	【改善策】子どもたちの成長や経験・体験の広がりのために必要な内容を削ることはできないが、時間の使い方やその方法については工夫、検討を継続したい。	B	

※【取組・反省】【改善点】は、【教師の営み】と【子どもの状況】の両方を合わせた内容について記載しています。

【学校関係者評価委員会】

保護者代表:2名    PTA役員代表:2名    後援会代表:2名    地域住民代表:2名    学識経験者:2名